

教科	美術	科目	素描	単位数	3
学年	3	科	美術造形	専攻・コース	
教科書	美術 I 光村図書		副教材	適宜テキストプリントを配布	
学習到達目標	1,2年次に修得した素描の過程に磨きをかけ、「モノ」や「コト」への興味関心をもって「モノゴト」の成り立ちを理解し、そこに内在する美しさや面白さを見いだすチカラを身につける。そしてその魅力を他者に伝え共有するための的確な表現力を身につける。				
評価の観点	関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技法、鑑賞の能力				

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
前	4	○素描 I 「花がメインの静物」  ○着彩 (デザイン専攻) ○パピエ・コレ (絵画専攻)	○自然物(花)を主なモチーフとして花の構造、色彩をはじめ、モノを素直に観ること、感じること、丁寧に表現することを心がける。  ○モチーフそれぞれの構成要素を理解し、的確な描写力を身につけると同時に、花の印象から受けるインスピレーションを基に作者オリジナルの世界観を構築する。	
	5	○素描 I 「花がメインの静物」  ○着彩 (デザイン専攻) ○パピエ・コレ (絵画専攻)	○着彩(デザイン専攻) 1,2年次に培った着彩のスキルを生かしてモノを観るチカラと細部まで描き切る体力を修練する。 ○パピエ・コレ(絵画専攻) 絵画制作において必須である空間の分析力と構成力を鍛え、素材と表現の可能性を追求する。	
	6	○素描 I 「花がメインの静物」  ○着彩 (デザイン専攻) ○パピエ・コレ (絵画専攻)	○着彩(デザイン専攻) 粘り強く制作をし、モチーフのリアリティーと透明水彩絵具の特性を画面に定着する。  ○パピエ・コレ(絵画専攻) 何度も素材と格闘することで得られる絵画的リアリティーと画面の強度を獲得する。	
期	7	○素描 I 「花がメインの静物」  ○着彩 (デザイン専攻) ○パピエ・コレ (絵画専攻)	○発表・講習会を行う。  発表・講習会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	
	8			
	9	○音のイメージ 「コーヒー画」	○画材の多様性の一つとして、普段の生活環境のなかにも美術制作に応用でき得る素材や教材が存在することを発見させ、固定観念に捕われない自由な感覚や発想を提示する。  ○音源(教員用意)から受けるイメージの内面世界を想像力豊かに自身のビジョンとして具現化してゆく行程を学び、画材の特徴や効果が画面づくりとアイデアづくりにもたらす影響を体感する。	

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後 期	10	○音のイメージ 「コーヒー画」	○画材の多様性の一つとして、普段の生活環境のなかにも美術制作に活用でき得る素材や教材が存在することを発見させ、固定観念に捕われない自由な感覚や発想法を提示する。 ○音源（教員用意）から受けるイメージの内面世界を想像力豊かに自身のビジョンとして具現化してゆく行程を学び、画材の特徴や効果が画面づくりとアイデアづくりにもたらす影響を体感する。	
	11	○細密着彩 「水辺の生物」	○発表・講評会を行う。 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。 ○三年間の集大成としてこれまでに学んだ観察力、描写力、表現力を駆使し、密度、完成度ともに高い細密着彩を行う。モノを徹底的に見つめ、それを再現するプロセスだけでなく、単にモノを描き写すことを超えた領域での個のオリジナリティーと更にはモノの存在意義や価値観を一枚の絵として結実させる。	
	12	○細密着彩 「水辺の生物」	○個々の生徒がそれぞれに見合った力量を最大限に発揮することを最終目標とする。	
	1	○細密着彩 「水辺の生物」	○発表・講評会を行う。 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	
	2			
3				

教科		美術		科目	素描	単位数	2
学年	高3	科	美術造形デザイン科		専攻・コース		
教科書		光村図書 美術			副教材	適宜テキストプリントを配布	
学習到達目標		<p>1、2年次に学んだ素描をベースに更に観察力、集中力、技術力（描画道具の使い方・客観的描写力・作品の完成度を上げる為の創意工夫など）の向上をはかる。更に感覚の開放、表現力の幅を増やす目的として積極的に未体験の画材や描画法を使用し観察描写の域を超えた造形感覚に磨きをかける。</p> <p>造形表現の基礎となる描写力を習得する。形態・パース・質感・構図・構成・空間などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための捉え方や技術を学ぶ。</p>					
評価の観点		<p>基礎的なデッサンの条件を満たしているか、形態・パース・質感・構図・構成・空間などの造形要素を理解しているか。また、デッサンをとおして表現の工夫、考える力が身についているか。</p>					
期	月	学習内容・項目		学習のポイントと到達目標			備考
前	4	素描Ⅰ 静物デッサン 「ブロックをメインに配置した静物」		<ul style="list-style-type: none"> <li>○複雑な構造をもつ人工物の形態の基本的な骨格と成り立ちを観察描写することでモチーフから与えられる情報を分析、解析する力を養う。</li> <li>○モチーフそれぞれの材質を考え質感を描き出せるよう工夫する。</li> <li>○モチーフのプロポーション、パースを素早く正確にとらえることに重きをおく。</li> </ul>			
		↓ 実技試験					
	5						
	6	↓					
期	7	素描Ⅰ 静物デッサン 「ブロックをメインに配置した静物」		講評			
				<p>発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。</p>			
	8	各自選択課題 「細密描写・人物デッサン・卓上デッサン」		<p>構成力、描写力、物語性、密度など三年次までに学んできた素描における総合力を確認する作業とする。</p> <p>作品のクオリティーを保ちつつ、効率的作業と仕事の素早さを身につける。</p>			
	9	↓					

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後	10	↓	構成力、描写力、物語性、密度など三年次までに学んできた素描における総合力を確認する作業とする。 作品のクオリティを保ちつつ、効率的作業と仕事の素早さを身につける。	
	11	各自選択課題 「細密描写・人物デッサン・卓上デッサン」		
		実技試験		
期	12	↓		
	1	各自選択課題 「細密描写・人物デッサン・卓上デッサン」	発表・講評会を行う。  発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。	
	2	普通授業終了後自宅学習		
	3			

教科	美術	科目	絵画	単位数	6
学年	3	科	美術造形	専攻・コース	絵画
教科書	美術 I 光村図書		副教材	適宜テキストプリントを配布	
学習到達目標	主として卒業制作（自由制作）を行う。絵画専攻の卒制サブテーマとして「暦・家・森・道・橋・階段」の6つの事項をあげ、各自がそのテーマを解釈し制作に取り組む。3年間に育んだ自分の視点をもって「モノゴト」を見つめ、思考を糧に得た発想力と素材を用いてかたちづくる表現力に重きを置き、個人がもっている魅力を制作へと最大限に展開する。自身の感覚を他者と共有できる表現へと高め、対象と誠実に向き合う姿勢、情熱を見いだす。				
評価の観点	関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技法、鑑賞の能力				

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
前	4	○油彩 I 「花がメインの静物」  ○卒業制作（絵画）	○素描で同時並行して制作している「パピエ・コレ」で実践中の空間構成、マチュールによって形成される絵画空間の構築を油彩にも応用し、互いの作業行程から得られる情報や技法の相乗効果をはかる。  ○各自サブテーマを利用しながらも表現に必要な道程を模索し、自ずと確立してゆくオリジナルな主題を主観的、客観的視点を踏まえて制作に取り組む。	
	5	○油彩 I 「花がメインの静物」  ○卒業制作（絵画）	○モチーフそれぞれの構成要素を理解し、的確な描写力を身につけると同時に、花の印象から受けるインスピレーションを基に作者オリジナルの世界観を構築する。  ○大作に臨む心構えとそれに動じない確かなビジョンとアイデンティティーを築き上げ、絵を描くことの原点でもある、喜びや楽しさ、好奇心を再認識する。	
	6	○油彩 I 「花がメインの静物」  ○卒業制作（絵画）	○自然物（花）を主なモチーフとして花の構造、色彩をはじめ、モノを素直に観ること、感じることを、丁寧に表現することを心がける。  ○練り上げてきたエスキースを基にイメージや構成を精緻化、選別することにより「足りないもの」と「要らないもの」を抽出する。（卒業制作）	
期	7	○油彩 I 「花がメインの静物」  ○卒業制作（絵画）	○発表・講評会を行う。（油彩 I） 発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。  ○成り行き通りにならない制作過程での「つまずき」や苦悩を克服してゆく忍耐力を養う。	
	8			
	9	○卒業制作（絵画）  ○卒業制作（共同制作）	○制作過程で生じる破綻や意外性、偶然性にも意識を払い、軌道修正と更に追求すべき内容に積極的に向き合う。 ○焼津信用金庫、大住支店のウィンドウを飾る縦309cm×横1,030cmの大作をクラス全員で制作する。 テーマの決定。（4月から個人でアイデアを練る） ・子供から大人まで幅広い年代の方が共通の話題にできること。	

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後	10	○卒業制作（絵画） ○卒業制作（共同制作）	○卒業制作の発表期日（美術造形デザイン科展）に向けて完成予想図を見越した作業行程と制作プランを具体化し、自身で作品完成の「落としどころ」「見極め」を決定する強い意志と判断力を身につける。 ○テーマの決定。（4月から個人でアイデアを練る） ・焼津、銀行、大きな交差点に面している人が集まる場所で街中を元気に楽しく演出できるもの。 ・現代社会の話題を反映し、社会との接点をもち高校生がみた時代性を表す。	
	11	○卒業制作（絵画） ○卒業制作（共同制作）	○発表、プレゼンテーションを実施することで冷静且つ客観的に作品の長所・短所を分析し、反省点や改善点に着目する。 ○他者の卒業制作を鑑賞し、多角的な観点から作品を味わう。 ○ネタ帳として掲示板を設営し、全員参加のもと着眼したことを書き綴る。 →テーマ決定会議（全員参加） →構図案（全員でエスキース提出） →テーマを2つまでに絞りエスキース2グループでそれぞれの案を提出 →2案から1案に構成 モチーフ決定、資料収集 構図の決定、配色計画	
	12	○卒業制作（共同制作）	○各チーフより進捗状況と課題を報告しながら誰がどこを進めていくのかを具体的にプロデュースし、進行する。 資料班 色彩計画班 下図班 構図係、モチーフイラスト係	
	1	○卒業制作（共同制作）	○完成に向けてのブラッシュアップ。 最後にクラス全員で完成の見極めを行う。	
期	2			
	3			

教科		美術		科目	ビジュアルデザイン	単位数	6
学年	高3	科	美術造形デザイン科		専攻・コース	ヴィジュアルデザイン	
教科書		光村図書 美術			副教材		
学習到達目標		<p>デザイン的な創造活動の基本となる諸要素の理解を深める。          生活の中で生かされるデザインに関心を持ち、多彩な表現を通して色や形に意味をもたせ、魅力的な視覚伝達へと展開していくことが出来る。          形態と色彩、材料を関連付け、多角的な発想力をつける。</p>					
評価の観点		<p>デザインの目的を実現するために、造形要素を理解し、それらを効果的に活かした構成を工夫し、自己の追究したい主題の構想を練る。          表現形式や技法を主体的に選択し、色彩、形態、材料の生かし方などの技能を働かせ、意図に応じ表現方法を選択し、意欲的主体的に表現活動に取り組む。</p>					
期	月	学習内容・項目		学習のポイントと到達目標		備考	
前	4	文字のデザイン  卒業制作 ビジュアルデザイン		<b>文字のデザイン</b> ○言葉を構成する文字をパターンとして連続して配置することで新たに生まれる文様としてのリズムを理解し、デザインする。 ○言葉を構成する文字を主体にイラストレーションとして視覚的に表し、言葉の持つ意味を伝えるグラフィックに仕上げる。 ○マチエールの利用、凹凸感を利用する事を条件とし、立体的空間の広がりを出した表現をする。 ○可読性とデザイン性のバランスを意図的にコントロールして人目を引きつけるデザインになるよう工夫する。			
	5			○異素材との組み合わせ、マチエールの研究をし、平面に質感を加味したデザインにする。 ○文字をグラフィックの重要な要素と捉え、ロゴ、フォント、サイズ、レイアウトをイラストレーションと同時に計画する。			
	6			<b>卒業制作 ビジュアルデザイン</b> ○テーマの設定 「SMIL HAPPY 顔 鍵 路地裏 光 仲間 散歩 世界 あこがれの都市 いつかの世界を持ち歩く 世界を取り出し拡大する 私と○○ 私の午後○字・午前○時」 言葉から着想し自分の目で「見る 視る 視る 診る」ことを通して得たことをテーマに決定する。			
	7			○自分のテーマを設定し、200～400字程度でテーマの世界観を説明する。 ○図鑑 ダイアグラム ピクトグラム イラストレーションなど構想段階から表現スタイル・画材・マチエールの計画を検討する。			
期	7						

	8		○資料収集資料収集は描くための情報としての資料の他にイメージを豊かにする自分の撮影した写真など自分の目線を大切にする。	
	9		○エスキース・習作は画面を構築する要素の検討とともに自分のテーマに対する骨格を確かなものにする。 制作のモチベーションをキープすること制作途中の迷走を発見の喜びにかえ軌道を修正していく力を付ける。	
期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後	10	卒業制作 (共同制作)	○ふじのくに芸術祭への挑戦 <b>卒業制作（共同制作）</b> ○焼津信用金庫、大住支店のウィンドウを飾る縦309cm×横1,030cmの大作をクラス全員で制作する。	
	11		○テーマの決定。 ・子供から大人まで幅広い年代の方が共通の話題にできる。 ・焼津、銀行、大きな交差点に面している人が集まる場所で街中を元気に楽しく演出できるもの。 ・現代社会の話題を反映し、社会との接点をもち高校生がみた現代を現す。	
	12		○ネタ帳として掲示板を設営し、全員参加のもと着眼したことを書き綴る。 →テーマ決定会議（全員参加） →構図案（全員でエスキース提出） →テーマを2つまでに絞りエスキース2グループでそれぞれの案を提出 →2案から1案に構成 モチーフ決定、資料収集 構図の決定、配色計画	
	1		○準備 チーフ全体指揮 資料班 色彩計画班 下図班 構図係、モチーフイラスト係 ○彩色 チーフ全体指揮 拡大	
期	2		パートごとにチーフを立てて着彩色彩班、色作り ○各チーフより進捗状況と課題を報告しながら誰がどこを進めていくのかを具体的にプロデュースし、進行する。	



教科	美術	科目	コンピュータ造形	単位数	2
学年	高3	科	美術造形デザイン科	専攻・コース	
教科書			副教材	適宜テキストプリントを配布	
学習到達目標	<p>1年次に習得したコンピュータソフト「アドビ・イラストレーター CS5」と、2年時に習得した「アドビ・フォトショップ CS5」を複合して活用するスキルを身につける。各ソフトの特性を生かし、思い描いた表現を実現する力をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○イラストレーター、フォトショップの基礎技術の習得。</li> <li>○ソフトの特性や互換性を理解し、それらを活かして作業をする。</li> <li>○実現したい表現への作業の道筋・計画を立てられるようになる。</li> </ul>				
評価の観点	<p>ソフトを活用した課題演習（作品制作）の中で基本的操作の復習を行いながら、実現したい表現に合わせて機能の応用ができているか。</p> <p>課題演習のアイデアチェック、作業途中での中間チェック、最終チェック等を通して課題の内容を把握しているか。</p> <p>ポートフォリオ（3年間の作品集）作成を通して、自己作品の振り返りと計画的作業進行、またソフトの総合的活用ができたか。</p>				
期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考	
	4	ピクトグラム	<p>イラストレーターを使い、ピクトグラム（絵文字）を制作する。テーマを設定し、8種類構想する。</p> <p>○事例鑑賞や解説を通してピクトグラムを理解する。</p>		
前	5		<p>○1つのテーマからたくさんのアイデアを構想し、8種類の案をまとめる。絵だけでの内容伝達を意識し表現を磨き上げる。</p> <p>○イラストレーターの基本操作を活用して制作を行う。</p>		
	6		<p>○各ピクトそれぞれが見応えのある表現になるよう注力し、丁寧な制作を行う。</p>		
期	7	CDジャケット	<p>CDのテーマを設定し、そのイメージに合わせたビジュアル制作を行う。</p>		
	8				

	9	CDジャケット	<p>○イラストレーターとフォトショップを連携させ、思い描いた表現の実現を目指す。</p> <p>○表紙・中ページ、CDの盤面等、構成する多くの要素を統一感のあるイメージでまとめあげる。</p>	
期	月	学習項目(単元)	学習内容(ねらい)	備考
後	10	ポートフォリオ	3年間に制作した美術作品(コンピューター造形以外の作品もすべて)をポートフォリオ(作品集)としてまとめる。	
	11		○3年間の集大成として、学んだソフトのスキルを存分に活かしA4サイズ20~30ページの制作を行う。	
期	12		○自分の作品をどのように冊子としてまとめるかを構想する。作品のピックアップや全体のデザイン設計、進行スケジュールの計画を行う。	
	1		<p>○まとめ方(学年毎、もしくはジャンル毎等)に応じて見やすいページデザインを考案する。</p> <p>○絵画・陶芸等の作品の写真撮影をし、その画像処理(色調補正やひずみ調整等)を行う。</p>	
	2		<p>○提出期限を意識しながら制作進行を自己管理する。</p> <p>○仕上がった作品集を鑑賞し合い、他者の表現から学びを得るとともに、自分の表現について振り返る。</p>	
	3			